

特集「ブロードバンドネットワークサービス」の編集にあたって

寺 中 勝 美†

ブロードバンドネットワークを活用したさまざまなサービスが広がってきている。光ファイバーや ADSL によるインターネット利用者数の急速な増大とともに、超高速ネットワークや無線・モバイルネットワークの飛躍的な技術革新によって、ブロードバンドネットワーク上での新しいサービス提供の枠組みが整いつつある。このために、要素技術の研究だけではなく、技術を複合的に組み合わせてシステム化する研究開発の重要性が高まってきている。

このようなテーマについては、情報処理学会の「マルチメディア通信と分散処理 (DPS)」研究会が中心となり活発な研究が続けられてきている。DPS 研究会では、年 5 回の研究会を開催し、毎年 DPS ワークショップを主催し、DICOMO シンポジウムを共催してきている。また、さまざまな国際会議への協賛、協力を行ってきている。合宿形式で行われる DPS ワークショップは、昨年 12 月に第 11 回を数え、九州阿蘇にて活発な発表と討論が行われ、ブロードバンドネットワークサービスに関する特別講演において有益な議論もなされた。

これらの活動をふまえ、ブロードバンドネットワークサービスに関わる領域において、通信品質やプロトコルなどの基礎研究からアプリケーションや実用化を含む研究全般について、最新の研究や開発事例に関する論文を一括して掲載することを目的として本特集号を企画した。編集方針として、通常の評価項目に加えて、サービスを実現するためにシステムの実装や評価から得られた有効性や問題点を明らかにし、その有用性を示した論文を積極的に評価することとした。

今回は、41 件の論文が幅広いテーマによって投稿された。これらに関しての専門分野を持つ 17 名の特集号編集委員 (うち論文誌編集委員 5 名) により特集号編集委員会を構成し、通常査読と同様に論文 1 件に対し、1 名のメタレビューと 2 名の査読委員を割り当てて査読を行った。この結果、最終的に 22 件の

論文が採録となった。システム構築の方法論や実システムの評価論文を多く採録することができ、マルチメディア通信を核にした新しい実益指向の研究開発の活発さを読者に伝えることができるのではないかと考えている。このような領域は、つねに新たな技術課題を提供する分野でもあり大きく変化していくことが予想されるが、本特集号が 1 つの通過点として今後の方向性を示す役割を担うことになれば幸いである。

最後に、本特集号をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会と、迅速な査読に協力していただいた査読者の各位に感謝したい。

「ブロードバンドネットワークサービス」特集編集委員会

- 委員長
寺中 勝美 (NTT レゾナント)
- 編集委員 (敬称略, 50 音順)
秋山 康智 (三菱電機)
渥美 幸雄 (専修大)
勝本 道哲 (CRL)
門林 雄基 (奈良先端大)
菊池 浩明 (東海大)
木原 民雄 (NTT)
串田 高幸 (日本 IBM)
郷 健太郎 (山梨大)
佐藤 文明 (静岡大)
重野 寛 (慶應大)
柴田 義孝 (岩手県立大)
滝沢 誠 (東京電機大)
中村 章人 (産総研)
西山 智 (YRP)
原 隆浩 (大阪大)
東野 輝夫 (大阪大)
宮部 博史 (NTT)

† NTT レゾナント